

ほっとニュース

発行：特定医療法人一成会 木村病院／企画広報室

地域のための医療を続けて行きます



一成会理事長・木村病院院長 木村 厚

新年おめでとうございます。皆さまごぞんじのように、「医療制度改革」についての話題が、新聞やテレビをにぎわしています。今年も、私たちにとって、厳しい年になりそうです。2006年4月から、診療報酬(診療に伴って私たち医療機関が受け取る金額)が引き下げられることになりました。それだけではなく、患者さんの負担も増えるので、それも、私たちにとっては大きな心配の種となっています。

わが国は、誰でも少しのお金で診療を受けられる「国民皆保険」の制度と、世界的な医療のレベルにより、他の先進国と比較して割安の医療費(*)で、世界一の平均寿命を実現しています。これは、「健康・医療レベルは国際的にも非常に優れたものである」と、WHO(世界保健機関)が高く評価したものです。にもかかわらず、財政再建のために、まっさきに取り上げられているのが、「医療費の伸びの抑制」です。政府は、今年10月から、70歳以上の患者さんの負担を、現在の2割から3割に増やすことを決めました。すでに、昨年10月からは、介護保険療養型病棟(木村病院では、3階病棟)で、食費・居住費が「患者さんの自己負担」となり、06年度にはこれが医療保険の病棟(2階病棟)にも広がります。今後も、さらに患者さんの負担が、次々と増やされて行くことになっています。



財政破綻の真の原因を解明して正しい対策を立てることなく、患者さんや高齢者の負担を増やす安易なやり方には首を傾げざるをえませんが、確かに、医療の中にも、非効率な部分があることは事実です。

一成会は、「地域のための医療」を続けて行くために、医療の質やサービスの改善に努めてきました。今後さらに重要性を増す予防医療にも、「荒川区基本健診」や「健康づくり教室」など、早くから取り組んできました。「患者さんにとっての切れ目のない医療」を目指して開設した訪問看護ステーションは、木村病院との連携体制で、終末期医療にも対応できるため、多くの患者さんや医療機関から信頼を頂いています。木村病院の病棟も、ほぼ満床状態を続けています。これらは、地域の皆さまの温かいご支持のおかげであると、職員一同、深く感謝しております。

しかし、まだまだ、満足しているわけではありません。一成会は、「地域のための医療」という方向

性を堅持し、地域の皆さまの声に耳を傾けつつ、さらに、医療の質のレベルアップや効率化という課題に取り組んでいく所存です。引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

2006 年が、皆さまとご家族にとって、健康で、素晴らしい年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

GDP(国民総生産)に占める医療費の割合(2003 年)は、OECD 加盟国中日本は 7.9%で 12 位、1 位のアメリカは 15.0%

私たちが、病院を支えるスタッフです 日々、頑張っています

理事会 財務担当理事 木村茂


木村病院の組織は理事会、企画広報室、診療部、看護部、医療技術部、事務部、患者サービス部、介護支援センターとなっています。私は各部署を統括し、管理する理事会に属しています。各部署で発生した問題・要望・提案を取りまとめて最終的な決定をします。入院・外来の患者さん、そのご家族、薬や物品を納品してくれる取引先の方々、そして職員の人の流れ、医療機器・消耗品の物の流れ、そして診察料を代表とする保険者からの入金、患者さんからの入金、薬や物品を購入する支払金等のお金の流れを日々管理することが重要な役割です。そのためには、一般社会・経済・医療業界の動向を常に凝視していく必要があります。また、病院と職員の目標を定め、社会情勢・経済動向・医療業界の動きが変化した時は、正しい方向に修正していく必要があります。患者さんの療養環境や病院に来院される全ての方々の環境や病院に勤務する職員の環境を整備していくことが重要な役割です。



企画広報室 顧問 関根龍太郎

企画広報室は、事業計画など一成会の経営に関する企画、院外報・院内報・ホームページ・パンフレットなど内外に発するメッセージの検討をします。理事会で時間をかけて検討することが難しい案件について、企画広報室が時間をかけて事前検討します。メンバーは、理事長、副理事長、財務担当理事、医療技術部長、私の 5 名で、理事長は、大事なポイントで参加します。一成会の大小さまざまな問題点に加え、今後の方針決定にかかわる、政治・経済・国際問題から、厚生労働省の政策、医療業界の動向、社会環境、いまだきの若者の意識まで話題は広く、メンバーの熱い思いから、ときに激論になることもあります。正に、一成会全体を、縁の下で支えています。

看護部 部長 宮本文子

看護部は、病院で一番人数の多い部で、看護師・介護者・看護事務が所属し、働く場所も、外来・病棟・手術室等、多岐に渡ります。看護師・介護者の役割は、病院全体の業務すべてに関わり、
 切れ目のない安全で良質なサービスを患者さんに提供する、橋渡し役も担っています。

5階看護部は、看護部職員のまとめ役です。私は、いかに病院全体が皆様に喜んで頂けるサービスを提供できるか、つねに考え、職員の指導・管理をしています。病院あるいは看護・介護職員に対してのご意見、ご要望等ありましたら、ご遠慮なく、私に声をお掛けください。

看護部 教育担当師長 今井斗季子


5階看護部で、私は、教育担当という仕事をしています。日々、技術が進歩し、制度が大きく変化しています。職員が、医療の技術や知識、接遇や制度に関する ことなど、様々な学習会や院外研修に参加できるよう、企画・コーディネートをしています。そこから得るものを日々の看護や介護に生かし、皆様へのサービス がより一層質の高い良いものとなり、満足して頂けるよう、努めています。

看護部 3階病棟師長 田村博子

3階病棟は、介護保険による介護療養型医療施設です。多くの介護を必要とする患者さんが入院しています。医師と看護師と介護者が常勤し、日常の健康管理から病気の治療、そして日常生活のお世話をさせて頂いています。

また、毎日リハビリに励み、在宅へ帰られる方への援助や、指導もさせて頂いています。そして一時的に在宅介護が難しくなった方のショートステイも受け入れています。

看護部 2階病棟師長 差波陽子

2階病棟には、病気やけがで入院して治療を受ける患者さんの急性期病床と、環境を整えて自宅に帰る準備段階の患者さんの亜急性期病床があります。患者さんの
 検査や治療、手術、リハビリテーション、訪問看護ステーションの調整など、良い看護、良いケアを提供していけるよう、医師をはじめ、看護師・介護者が働いています。そして、栄養士・薬剤師・医療福祉相談員などのスタッフと協力して、チームで患者さんを診ています。

いつも忙しく働いていますが、私たちはいつも患者さんのことを考えています。何かありましたら、いつでも声をおかけ下さい。笑顔で対応したいと思っています。

看護部 外来主任 掛作友香

1階外来には、診察室や処置室をはじめ、医事課、医療相談室、レントゲン、検査室、内視鏡室、リハビリテーションセンターとたくさんの職場があります。私 たち看護師は、主に診察室と点滴や救急車を受け入れる処置室、胃カメラ・エコーなどを行なう内視鏡室にいて、それぞれ、医師の介助や、検査介助、救急対応 などを行なっています。

患者さんが、少しでも元気になって頂けるよう、笑顔で丁寧な対応に心がけ、また、お待たせしないよう、医師とコミュニケーションをとりながら早い対応を心掛けています。患者さんに支持される病院となるために、安全な医療と真心のこもった対応で、スタッフ一同日々努力していきます。

看護部 外来介護主任 山本千代美

私の仕事内容は、診察室・処置室の診療準備で、1日のほとんどを中央材料室という部屋で働いています。



診察前の診察室・処置室の、シーツ・枕カバーを交換し、整え、その日の診察科担当医の名札をドアボードに張り出します。診療に使用するガーゼ等の衛生材料とハサミ等の医療用具がきちんと所定の位置に必要量おかれていることを確認し、不足の場合は補います。また、それらを、包装、消毒、滅菌して、安全に使えるようにします。現場のスタッフがスムーズに医療を行なうことが、患者さんの負担軽減につながると考えています。直接患者さんにふれることはありませんが、安全に気を配りながら衛生材料と医療用具を現場に提供することを、日々心がけ、努めています。

医療技術部 部長兼 臨床検査科 科長 延藤正則

臨床検査科では、常勤・非常勤を含め、3名の臨床検査技師と1名の検査助手が働いています。私たちは、検査により皆様の体の情報をとらえ、医師やその他の医療職種に伝え、病気の診断や治療につなげる仕事をしています。検査の例としては、血液検査・尿検査・便検査・脳波検査・呼吸機能検査などがあります。その他、健康診断、入院患者さんの栄養状態、院内感染防止のためのデータなどの検討や分析も行ないます。直接接する機会は少ないのですが、皆様の健康のために全力で取り組んでいます。



医療技術部 診療放射線科 科長 仁藤正

診療放射線科は、外来・入院の患者さんの、主に肺や骨のレントゲン写真撮影、胃のバリウム検査、CT検査等を行なう他、地域・職域を対象とした生活習慣病予防医学の画像情報の提供をします。

昨年3月より、2機種目の最新CR装置を導入して、X線写真のデジタル化をしました。X線被ばくが軽減され、「体にやさしい検査」となり、しかもスピーディーにシャープな画像を提供することが可能となりました。

スタッフは専門技師3名ですが、日々切磋琢磨し、質の高い医療サービスと他施設からの画像検査依頼にも対応できる体制を整えています。「早期発見・治療」から、「健康で明るい家庭、地域づくり」のお手伝いをと願っています。

医療技術部 リハビリテーション科 科長 真藤操

私の科は、理学療法を行ない、患者さんが、身体機能を回復し、地域や社会に戻るお手伝いをしています。



理学療法とは、病気やけがにより身体機能の障害が起こった時、運動療法による筋力・関節可動域・協調性の改善を図り、また、温熱・電気などの物理療法により疼痛・循環の改善を図るものです。例えば、脳卒中で片麻痺になった時や骨折した時に、ベッドから起き上がり座れるようにする、車椅子に移ったり平行棒や杖を使用しながら歩く練習をする、といった身体能力改善の指導とお手伝いをします。また、不安なくスムーズに退院後の生活が送れるように、退院前にはご自宅に伺って、手すりの設置や段差の解消、トイレやお風呂場の改造等の環境設定を行ない、安全で動きやすい動作を指導しています。これからも、患者さんやご家族が、地域で安心して生活して頂けるよう、取り組んでいきたいと思っています。

医療技術部 栄養科 科長 後藤奈津穂

栄養科は、日に3度の食事を、患者さんの病態に応じて提供しています。食事は入院中の楽しみでもあり、患者さん一人一人の嗜好にできるかぎりお応えするため、平日の昼・夕食の主菜は2品の中から選んで頂きます。また、アレルギーに対応した食
材選び、飲みこみ状態を考慮して細かく刻んだり、とろみをつけたりと、“安心しておいしく召しあがっていただける食事”づくりに日々励んでいます。



そのために不可欠なのが、患者さんの病状・心状・食事摂取状況等を、正確に把握することです。そこで、当院では、“栄養サポートチーム”を作り、医師・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士・ケアマネージャー、そして、私(管理栄養士)が、患者さん全員の病態を、それぞれの専門分野から総合的に検討して食事療法の方針を決定し、患者さんの栄養状態の改善を図っています。

医療技術部 薬剤科 科長 森信子

私たち病院薬剤師は、薬物療法が安全で適切に行なわれるよう、日々励んでいます。薬を購入し、管理します。入院患者さんの飲み薬を調剤し、注射薬をセットします。医師や医療スタッフからの薬の問合せに答えるDI(医薬品情報管理)業務も行なっています。入院患者さんが、他の病院が処方した薬を持参した場合は、その薬を調べて、今後の薬物療法が最適に行なわれるようにします。

その他、重要な仕事の一つに、薬剤管理指導業務があります。入院患者さんに、内服薬や注射薬の説明をします。病状や体質に気をくばり、副作用や相互作用が起こらず、適正な薬物療法が行なわれるよう、管理しています。

3名の薬剤師と1名の事務員が、医師や看護師等と助け合いながら、頑張っている仕事をしています。

事務部総務課 主任 田沼邦男

総務課は、患者さんと直接に接する機会が少ない部署ですが、病院の「縁の下の力持ち」として日々がんばっています。私たちの仕事は、職員一人ひとりが患者さんにより良いサービスを提供できる環境を作ることです。事務だけでなく、病院で使う品物を購入し、運んだり、電気・水道の点検、修理で院内を巡回しています。男性4名・女性1名の5名体制で張り切っています。06年度には、手術室・中央エレベータの改修をします。より快適な病院になるように、各部署と連絡を取合い、計画的に仕事をしていきます。



事務部医事課 課長代理 福井聡

医事課は、患者さんの受付から会計までの事務処理業務を主に行なっています。ご来院頂いた患者さんの受付、保険証の確認などをしてカルテを作成します。また、以前来院されたことがあれば履歴を検索し、カルテを診療情報室より用意します。診察後は、診察内容に応じた診察料を計算し、保険の種類により窓口でお支払い頂く金額を会計します。そして保険請求のために、診療報酬明細書(レセプト)を作成し、月に一度提出しています。

医事課は皆様の窓口という役割も担っており、一層の努力をしていきますのでよろしくお願いいたします。

患者サービス部 主任 上村いづみ

患者サービス部には、消費生活アドバイザーの資格を持つ部長と、医療福祉相談員(MSW)2名、ハウスキーパー1名がいます。MSWは、安心して治療に専念して頂くために、病気やケガから生じるさまざまな心配事を解決するお手伝いをしています。社会福祉の専門的な知識と技術を持って、個々に相談をお受けします。秘密は厳守します。相談料はかかりません。また、近隣の病院や開業医の先生との連携を良くする働きかけをしています。専門的な治療が必要な時や、もっとご自宅に近い病医院をご希望の時に、円滑にご紹介できる体制作りを目指しています。



ハウスキーパーは、皆様に快適な治療・療養環境を提供できますよう、努めています。

介護支援センター センター長 植原浩子

木村病院介護支援センターは、東京都知事の指定を受けた機関で、介護支援サービスの提供を主な業務として、介護支援専門員(ケアマネジャー)1名、事務1名がいます。「要介護認定の申請をするには、どうすればいいの?」「認定されたら、どんなサービスが受けられるの?」等、介護保険についてのご相談を承っています。また、区から委託を受けて、要介護認定に必要な「訪問調査(心身の状況を調べるための、ご本人やご家族などへの聞き取り調査)」、心身の状況について医師が記入した「主治医意見書」の発送業務を行なっています。

申請をされた方が不安なく介護サービスを利用できるよう、親切な対応を心がけています。



編集後記

今号は、前回の「病院って、どんなところ？」の続きとして、病院で働いているのはどんな人たちか、特集しました。スペースの都合で、今回は医師以外の職種を取り上げました。白衣を着ていると、みんな医者と看護師に見えますが、意外に多くの職種の職員が、病院で働いています。

それぞれ、患者さんのこと、地域のことを思いながら、日々、仕事に励んでいます。